

菓子木型をつなげ！

～若い世代に魅力ある伝統を～

代表者 澤田みのり（経済学部経済学科3年）

1. 目的と概要

私たち KAGAWA Maker は「お菓子で香川を盛り上げる」を目標に活動している学生プロジェクトである。活動の一環として2017年10月に菓子木型を用いた和三盆干菓子を作るワークショップを開催した。それ以降、菓子木型・和三盆の魅力を伝えるための活動を行っている。昨年度の学生支援プロジェクト事業にも採択していただき、ワークショップ・お土産の商品開発・オリジナル菓子木型の制作に取り組んだ。

菓子木型・和三盆は香川の伝統的な特産品である。しかし、まだまだ知名度が低いと感じた。私たちが実施したアンケートでも「菓子木型が伝統工芸品であるということを知らなかった」と答える方が多数存在した。ワークショップの開催時は体験型のイベントであるためか、小学生以下の参加者の割合が高かった。また、菓子木型・和三盆の歴史や特徴について興味を持っているのは年配の方が多かった。私たちと同世代である20代は菓子木型・和三盆を知る機会が少ないのではないかと考えた。

そこで本プロジェクトは菓子木型・和三盆に興味を持ち、魅力を感じる20代が増えることを活動目的とした。

この目的を達成するために、本プロジェクトでは以下の3つの活動を実施した。

- ① ワークショップの開催
- ② 小物雑貨の制作
- ③ 新聞作成による情報発信

①ワークショップは2回行い、第1回目のワークショップは和三盆教室を行う豆花の上原さんを通して、ウエルぱる高松にて行った。そして、第2回目のワークショップはオンライン上で開催した。これらのワークショップを通して、楽しみながら菓子木型・和三盆について学んでいただくことを目的として行った。

②和三盆・菓子木型に触れる機会が少ない若者が、興味を持つきっかけとなることを目的に、樹脂粘土等を利用して小物雑貨を制作した。

③これまでも豆花（和三盆体験教室）の上原さんの協力のもと新聞作成を行ってきた。

和三盆・菓子木型の歴史や現状を楽しく分かりやすく伝えられるように、本プロジェクトで引き続き新聞作成と、新たに動画制作を行った。新聞では今までの反省を踏まえて、内容を以前よりも充実させ、新聞の読みやすさの改善など、クオリティー向上に努めた。

2. 実施期間（実施日）

令和2年 6月1日から 令和 3年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、①ワークショップの実施、②小物雑貨の制作、③新聞製作による情報発信を行った。

① ワークショップの実施

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、感染予防対策を立てた結果として、ウェルぱる高松での対面のワークショップとオンラインで計2回開催した。

ウェルぱる高松で開催した対面でのワークショップは、上原さん（豆花）から補助スタッフとしてお声がけいただき、令和2年10月24日に実施した。時間帯を分け、少人数で行い、当日も新型コロナウイルス感染症の対策を十分に行った。ワークショップの内容は、和三盆作り、ビンゴ、劇、クイズである。和三盆作りは、講師の上原さんの補助として、参加者テーブルを回り、子供たちにアドバイスした。ビンゴは、菓子木型の模様に、季節感や日本らしさなど様々な種類があることを知ってもらうことを目的に、企画し実行した。通常のビンゴで使われる数字の代わりに、様々な種類の菓子木型で作られた和三盆の写真を使い、何をモチーフに作られたものかを当てながら行った。劇は和三盆の歴史をテーマに、登場人物を紙で作成し、和三盆の成り立ちについて紹介した。クイズは、和三盆・菓子木型の基本情報を3択形式で出題した。



↑ ウェルぱる高松でのワークショップ

↓ 菓子木型の柄のイヤリング

② 小物雑貨の制作

購入した菓子木型を使用し、アクセサリ（イヤリング、キャンドル等）を作成することができた。菓子木型をパンフラワー粘土で型取り、さらにプラスチック粘土で型取りイヤリングを制作した。完成したアクセサリは SNS で情報発信を行った。小物雑貨は、菓子木型を使用し作成したが、完成品に菓子木型の魅力が伝わりにくいなどの反省点があった。



③ 新聞製作による情報発信

菓子木型職人の市原さんにお話を伺いに行き、新聞と4コマ漫画を作成した。菓子木型の歴史や和三盆の歴史、菓子木型の現状、和三盆の作り方を1ページにまとめた。作成した新聞は小学生に向けて配布する予定である。また、豆花で、和三盆作りを体験した際の様子を動画にした。作成した動画は同世代の若者に向けて SNS (Instagram、Twitter、Facebook、YouTube) で発信した。

↓ 動画制作の様子



このプロジェクト事業により、ワークショップに参加した小学生から大人の方、SNS等で情報を受けた人など当初のターゲット層よりも幅広い年代の方に菓子木型・和三盆の魅力を知ってもらうことができた。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

令和2年10月24日に開催した対面でのワークショップでは、36名にご参加いただいた。アンケートを通じて、ワークショップに対する満足度を調査したところ、「非常に満足」と答えた人数は、回答者17名のうち14名であった。自由記入欄では親子で参加していて、「子供の手伝いを学生さんがやってくれて助かった」や「思っていたより楽しかった」などの意見をいただいた。アンケート結果は好評であったが、劇の内容が少し難しかったので、子供向けに改善することを来年度の課題としたい。新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止になるなか、ワークショップを開催することで、地域住民さらには県外の方にも楽しんでいただいた。

また、新聞に加えて動画での情報発信を行うことで、同世代の女性にも菓子木型の魅力を伝えることができた。投稿開始から6日間で、動画再生回数がYouTubeで27回、Instagramで291回であった。この動画を通して、KAGAWA MakerのInstagramを閲覧する年齢層である、同世代の女性が菓子木型や和三盆に触れる機会をつくることができたと考えられる。しかし、多くの人に伝統工芸品である菓子木型の存在を知ってもらうには十分とは言えないため、今後も反省点を改善していき、対面のイベントが開催できなかったとしても、同世代の若者に届くように取り組みたい。

全体を通して、地域住民に対して楽しみながら菓子木型の魅力を伝えることができ、コロナ禍でも香川大学生が地域を活性化するために行っている活動についても認知度を向上させることができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

自分たちで活動計画を立て、実施し、結果の反省を行うことで、自主性や積極性が身に付いた。特に、豆花新聞を作成する際には、上原さんに和三盆や菓子木型について、取材させていただき、新聞にまとめたことで、計画的に進めていく力が付いた。取材や動画、新聞作成の話し合いを通して、学生同士の様々な考え方に触れることができた。さらに、私たちも菓子木型や和三盆を取材していきながら、日本の伝統工芸や伝統文化

について興味を持つようになった。

コロナ禍で新たに始めた、オンライン和三盆のワークショップでは、今後の活動の幅を広げることにもつながった。これまでは、県外の方に和三盆や菓子木型を伝えるためには、県外でワークショップを開催しないと伝えることはできないと考えていた。しかし、オンラインで行うと、県外の方からの参加も可能となり、自宅にいても伝統工芸品について学び、興味を持ってもらう機会となった。また、対面のワークショップでは、自主開催が困難となったが、上原さんの補助として対面で開催することはできた。しかし、活動を自粛せざるを得ない状況が続いた。活動が減少したことにより、自分たちで行動しなければ伝える手段がなくなった。オンラインであれば、感染症対策をとりながら、自分たちだけで和三盆のワークショップを開催することができるので、自分たちが積極的に行動すれば、菓子木型や和三盆を伝える機会は増えることを実感した。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点は、予定していた活動ができなかったことである。新型コロナウイルスの影響で、対面の和三盆ワークショップが開催できず、活動を進めることができなかった。早めにオンライン和三盆を開催したり、先に小物雑貨の制作を進めたり、状況に合わせて自分たちができることを考えて、行動するべきであった。オンライン和三盆は開催したが、菓子木型や和三盆に対する知識が不足しており、菓子木型の魅力を伝える力が不十分だと感じた。

今後は、オンライン和三盆ワークショップを進めていき、これらの課題を改善していく。画角に気を付けたり、オンラインでも魅力を伝わりやすくしたりして、お客さんが退屈せずに、楽しんで参加できる工夫が必要である。加えて、次年度からは感染症対策を万全にし、対面でのワークショップも再開していきたい。小物雑貨制作に関しては、ワークショップでの配布を行うことができなかった。しかし、何度かの試作を重ね、改善点や課題を発見することができたため、次回の活動に反映させ、様々な点から菓子木型の認知度を高めるアプローチをしていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	澤田	みのり	(経済学部3年)			
構成員	瀬尾	友加里	(経済学部3年)	越智	なぎ沙	(法学部3年)
	加藤	真由	(法学部3年)	松原	菜々子	(法学部3年)
	海田	梨沙	(経済学部2年)	豊田	七海	(経済学部2年)
	重松	音緒	(経済学部2年)	園田	真夕	(法学部2年)
	河瀬	美里	(農学部2年)	村田	絵美	(農学部2年)
	石川	茉依	(農学部1年)	岡	希美	(教育学部1年)
	小西	凜	(法学部1年)	下元	優	(経済学部1年)
	福家	楓	(農学部1年)	青木	萌々果	(経済学部4年)
	竹下	颯人	(経済学部4年)	岡本	えみり	(農学部4年)

8. 執行経費内訳書

配分予算額		152,919円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
パンフラワー粘土	1		2,680	
菓子木型	3	16,000	48,000	
除菌スプレー	3	2,720	8,160	
子供用ビニール手袋	3	480	1,440	
ポリエチレン手袋	2	143	286	
保存容器	8	110	880	
スプーン	1		159	
ステンレスボウル	3	1,390	4,170	
ステンレストレー	2	847	1,694	
プラスチックボウル	12	243	2,916	
霧吹き	4	110	440	
ディナープレート	3	1,280	3,840	
レジン液	3	1,980	5,940	
カラーレジン液	5	2,900	14,500	
絵具	1		1,345	
小麦粘土	14	892	12,488	
携帯ストラップ	3	1,699	5,097	
イヤリングパーツ	7	1,090	7,630	
ピアスパーツ	6	1,298	7,788	
穴無しビーズ	1		2,188	
穴無しカラーパール	1		1,211	
穴無しパール	1		1,352	
UVライト	1		980	
グルーガン	1		1,680	
ピンセット	1		768	
ドライフラワー	1		898	
スレートプレート ラウンド	2	880	1,760	
スレートプレート 正角皿	2	1,100	2,200	
プレート 円形	3	649	1,947	
ウッドプレート	5	550	2,750	
おゆまる	1		2,450	
電気スタンド	1		2,680	
スイーツチャーム	1		602	
合計			152,919	